

クラウドベースの 音楽配信サービスについて

米国アップル社が2011年10月に『iCloud』を開始し、話題を集めている。そして、国内外問わず、さまざまな企業が同様のサービスを開始しており、パーソナルなコンテンツを複数の端末から自由に音楽を聴くことができるクラウド環境が、一般ユーザーの間にも広がろうとしている。そこで、今回はクラウドベースの音楽配信サービス(以下、クラウド・ミュージック・サービス)について整理してみたい。

文●長野晋也

Shinya Nagano

電通総研

チーフ・メディア・リサーチャー

クラウド・ミュージック・サービス が注目される背景

まず、クラウドが注目される背景として、Wi-Fiの普及が急速に進み、どこでも高速ネットワークに接続できる環境が世界的に整いつつある点が挙げられる。また、スマートデバイスなどの普及に伴い、端末を複数所有するマルチデバイス・ユーザーが増えている。このユーザーは、各端末にあらかじめ楽曲を同期しておかないと、聴きたい音楽にアクセスできない不自由さを感じつつある。さらに、音楽データの同期自体に手間と時間がかかっていた。そこで、クラウド上に自分のライブラリを置き、好きな時にどこからでも音楽データにアクセスできるニーズに応えたのが、クラウド・ミュージック・サービスである。このサービスは音楽業界に加えて、国内外の端末メーカー・通信事業者・ネット事業者・コンテンツ事業者などのさまざまな企業により提供されている。

さまざまな企業が参入中の クラウド・ミュージック・サービス

クラウド・ミュージック・サービスは、昨年から今年にかけてアップル社以外にも多くの企業が展開している。中でも海外の代表的なサービスとして、Amazonが2011年3月に楽曲データをクラウド上に保存可能なサービス『Amazon Cloud Drive』と、同サービスに保存した音楽ファイルをAndroid用アプリなどでストリーミング再生できる『Amazon Cloud Player』を開始した。また、Googleも2011年11月に同じくストリーミング再生機能を備えた『Google Music』を米国内のみで開始した。楽曲は各端末のローカル内には置かず、クラウドに格納され、クラウドの可能容量(最大300GBまで無料)に対して、1ユーザー当たり最大2万曲をアップロードできる。ソニーも『Music Unlimited powered by Qriocity』に対応したアプリケーションを、海外9カ国でAndroidマーケット

経由にて提供を開始した。

一方、国内では2010年9月にヤマハミュージックメディアが『My Sound』を先行開始した。続いて、MTIが2011年4月に『music.jp stream』を、レコチョクとKDDIが同年6月に『My Sound』と同様にAndroid端末に特化した『LISMO unlimited powered byレコチョク』を開始した。

主要クラウド・ミュージック・ サービスの違い

これらの国内サービスは、コンテンツごとに課金されるのではなく、定額料金を支払うことで一定期間使い放題になる「サブスクリプション型」サービスが主流になりつつある。ユーザーは音楽データそのものを所持(ダウンロード)せず、各自のアカウントからサイトにアクセスして音楽を再生する。従来、携帯電話やPCなど各端末に固定されていたアカウントを、ユーザー側に固定

することでマルチデバイス対応が可能となった。現在もこのマルチデバイス対応が各サービスの共通テーマになっている。

一方、米国で次々と開始されている「ロッカー型」サービスとは、「サブスクリプション型」とは異なり、音楽データをクラウド上にあるオンライン・ストレージ（インターネット上のファイル保存サービス）内に蓄積し、その都度音楽プレーヤーから取り出して再生するものだ。さらに、これらの「ロッカー型」サービスは、大きく分けて“ライブラリ連動方式”と“アップロード形式”の2つに分けられる（[図1] 参照）。

まず、“ライブラリ連動方式”の『iCloud』は、『iTunes Store』における楽曲の購入履歴をクラウドと同期させることで利用でき、『iTunes Match』では自分の楽曲ライブラリをクラウド上に登録できる。つまり、クラウド上にはデータを置かず、インデックスだけが登録される。ちなみに、登録された楽曲は最多で10機種まで聴くことができる。これは、違法ダウンロード対策と同時に、ストアにユーザーを囲い込むことが最大の課題となっている。また、“アップロード形式”の『Amazon Cloud Player』や『Google Music』では、楽曲は各デバイスのローカル内に置かず、クラウドに格納されたデータをクラウド上でストリーミング（またはダウンロードを選択して）再生される。

なお、これらの海外クラウド・ミュージック・サービスは2011年11月時点で、日本国内での開始は未定だ（※『iCloud』の音楽機能以外は利用可能）。そもそも国内では、クラウド上に複数のデバイスへ送信可能なデータを置くこと自体が放送可能権や複製権などに触れるという考え方もある。もし、国内で開始される場合は、パッケージメディアやCDレンタル・サービスなどが普及している国内の音楽ユーザーに、クラウド・ミュージック

